

IFSC ルール 2018 変更点

1月に「予告」が出たものの、その後4月に入るも最終的な形の見えてこなかったルール 2018 だがようやく4月10日を過ぎてリリースされた。全体を見た印象としては、「予告」があったこともあるが、散々じらされた割にボルダーの成績評価システム以外にはドラスティックな変更点はない、と言えるのではないだろうか。

同時にコンバインのルールは情報の不十分なこともあって意味不明な個所もある。いずれにせよコンバインのルールは、まだ最終形とは言いがたい気がする。

1部 競技の運営管理

国際ライセンス

2. 加盟団体

国籍変更に関するルールの厳密化

2.5.4 各選手は、そのパスポートの発行を受けた国の連盟/協会に所属していなければならない。2つの国籍を持つ者については、当該選手及び選手団役員はIFSC公認競技会において所属する連盟/協会を選択しなければならない。シーズン中の所属変更は 3月1日またはIFSCの年間予定に記載された最初の大会の開催日の、いずれか早い日付以降は認められない。選手は一度変更した後は、4年以内の再度の所属の変更は認められない。選手の所属変更には、関係する双方の所属連盟/協会の合意が必要となる。

選手がコーチを兼任する場合、制裁処分の対象としては同一人としてあつかう

2.5.6 選手がコーチを兼任する場合、制裁処分の対象としては同一人としてあつかう。コーチとしても登録されている選手は、懲戒処分には際しては同一人とみなされる。制裁は累積される。

第2部 テクニカル・ルール

7.ボルダー競技規則

スタートのマーキングに関する明確化

7.2.5 各ボルダーには明示された以下の開始位置がなければならない。

- i. 両手のマーキングされたハンドホールド;
- ii. 両足のマーキングされたフットホールド。
- iii. 一本線のテープで壁の何も無い、もしくは範囲の特定できない部分を開始位置としてマークすることは認められない。
- iv. 特別な場合、要求されるスターティング・ポジションを特定するために、スターティング・ホールドに左右の別を示すことができる。
- v. 複数のホールドを組み合わせた場合は1個のホールドと見なしてマーキングする。

決勝は男女カテゴリーを別々に実施するため削除

7.7.14 適用せず

タイブレイク・ボルダーが廃止されるため削除(後述 7.10.4 参照)

7.7.18 全文削除

選手はムーブを行う前に、安定した体勢を経なければならない。¹

7.9.2 地面から離れた後、それ以上のムーブをおこなう前に、選手は 7.2.5 の規定に従ってマーキングされたスターティング・ポジションにつかなければならず、それ以外のホールドを使用する前に、スターティング・ポジションのハンドホールドを保持 (コントロール) しなければならない。

付記: 選手がレジティメイトポジションにあって、体勢の関係で他のホールドやボリュームに触れた (使用はしていない) 場合、そのスタートは不正スタートではないとみなされる。

順位決定システムの変更

7.10.1 競技会の各ラウンド終了後、そのラウンドに参加した各選手の、そのスターティング・グループ及びカテゴリー内での順位が以下の基準にもとづいて決定される:

- i. 最初に、当該ラウンドでの完登したボルダーの数(以下、完登数)の降順
- ii. 2 番目に当該ラウンドで獲得したゾーンポイントの数の降順
- iii. 3 番目に、完登したボルダーの完登までのアテンプト数の合計の昇順
- iv. 4 番目にゾーンポイント獲得までのアテンプト数の合計の昇順

例:

順位	完登数	ゾーン数	完登までのアテンプト数合計	ゾーンまでのアテンプト数合計
1 位	4	5	5	7
2 位	4	4	4	4
3 位	4	4	5	4
4 位	3	5	3	5

表彰の対象となる順位の同着を分けるための新しい手順

7.10.4 7.10.3 にしたがってカウントバックをおこなった結果、なお同着の選手が残る場合:

i. 決勝ラウンド後にそのような同着が、1 位、2 位、または 3 位の選手に生じた場合、これらの選手の間
順位は以下のように決定される:

a) これらの選手についてその最も良い成績をまず、決勝ラウンドの最初のアテンプトでの完登数、次に 2 回目での完登数という風に順に比較する;

¹ 原文ではこの後に“Possibility to touch unmarked holds when the climber is in the starting position”と続く。これがこのままでは解釈不能に近い。推測では、“in the starting position”が“in a legitimate position of start”の誤りで、「付記」の部分についての指すものではないかと思われる。

b) a)の比較で同着が分かれないう場合、決勝ラウンドの最初のアテンプトでのゾーン獲得数、次に2回目でのゾーン獲得数という風に順に比較する

c) 1位から3位に、a)、b)の比較後も同着が残る場合、準決勝、また必要な場合は予選についても可能であれば適用する(予選が1グループのみで実施の場合)。

d) a)、b)そしてc)の適用後も同着が残る場合、それらの選手は同順位とする。

ii. それ以外で選手が同着となった場合、それらの選手は同順位とする。

8.スピード競技規則

決勝ラウンドのステージ数についての従来の解釈の問題

8.1.2 スピード競技会の通常の構成は以下のとおり：

- i. 単一ステージからなる予選ラウンド；
- ii. 2~4のステージ(1/8ファイナル、1/4ファイナル、1/2ファイナル、そしてファイナルはスモールファイナルとビッグファイナルで構成される)からなる決勝ラウンド；

不測の事態の場合は、ジューリ・プレジデントはラウンドのうちひとつを省略することができる。1ラウンドが省略された場合、先立つラウンドの結果を省略されたラウンドの順位とする。

手動計時の廃止

8.4.2 クライミング・タイムの計測は以下の双方を用いておこなう：

- i. IFSC の認証を受けた 自動計時システムでおこなう。
- ii. ~~手動計時~~

大会中に電氣的機械計時システムを使用してラウンドを開始し、途中で使用不能になった場合、そのラウンドの成績は、手動計時による記録を用いて決定する。手動計時による成績は、電氣的機械計時システムに回復不能な障害が生じた場合の、バックアップとしてのみ使用するものとする。：

自動計時に関する規程の明確化

8.4.3 計時システムは IFSC の認証を受けねばならない。計時システムは：

- i. 各選手のそれぞれの競技終了時間を、選手が 自動システムのスイッチ/パッドを叩いた時に、記録できなければならない。
- ii. 各選手のそれぞれの競技記録を、スタートの合図の時刻(a)と競技終了時刻(b)の差分として、個別に表示できなければならない。

iii. 8.9.8 に規定される不正スタートを報知できなければならない。

手動計時の廃止

8.4.7、8、9 削除

同着を分けるのに追加アテンプトをおこなうのではなく、1/1000 秒単位の記録を使用する²

8.7.5 同着の選手があつて、決勝への定員を超過する場合、少なくとも一つの有効な時間記録を持つ当該の各選手の順位は、以下のように決定される；

² これは予選ラウンドについての言及。

i. 1/1000 秒精度の記録を使用する:

ii. なお同着がある場合、各選手の 2 つ目の時間記録を 1/1000 秒精度で比較する。より速い時間記録を有する選手に上位の順位を与える:

iii. 2 つ目の時間記録を持たない選手は、2 つ目の時間記録を持つ全ての選手の下位となり、(それが 1 名より多い場合)その選手間の順位は左レーン(レーン A)での追加アテンプトで決定する。当該選手は、レーン A で同着をわけるための 1 回の追加アテンプトをおこなう。これらのアテンプトでの時間記録は、選手の決勝進出を決定するためにのみ使用される。

付記：同着をわけるために必要な場合は、繰り返しアテンプトをおこなう。

計時システムが 1/1000 秒の精度で使用できない場合は、テクニカル・デリゲートの判断で同じ規定を 1/100 秒の精度のみで適用する。このことはテクニカル・ミーティングで告知されねばならない。

同着を分けるには、1/1000 秒単位の記録を用い、追加アテンプトをおこなうことはしない³

8.7.10 決勝のいずれのレースであれ、結果が同着だった場合、1/1000 秒精度の記録を使用する。その後になお同着が残る場合予選ラウンドで、(8.7.5 の全てを適用した上での)より速い有効な時間記録を有する選手を勝者とする。

決勝ラウンドでの不正スタートの場合、勝者は一人で登ることはせず、1/2 ファイナル

8.9.9 選手が大会中に不正スタートを 1 回した場合:

i. 予選ラウンドの場合

- i) 不正スタートをおこなったレースの有効な時間記録は与えられず、その大会のそれ以降の参加資格を失う；
- ii) 不正スタートをおこなった選手は、そのラウンドの最下位となる；

ii. 決勝ラウンドの場合

- i) 不正スタートをおこなったレースの有効な時間記録は与えられず、その競技会の以後のステージへの参加は、不正スタートをおこなったのが 1/2 ファイナルで、3 位決定戦に参加する場合を除き認められない；
- ii) 決勝で不正スタートをおこなった選手、選手はそのステージでの最下位となる。または不正スタートをおこなったレースが競技会の最終ステージ中である場合は、その順位は 8.10 に規定するところに従って決定される：

不正スタートをおこなわなかった選手はそのレースの勝者となり、それがビッグファイナルで世界記録更新のためのアテンプトを認められる場合を除き、再度登ることはしない。

10.スピード世界記録

手動計時の廃止

10.3 従来の 10.3 は「手動計時」に関する規定だったが、これを全て削除され 10.3 は「オートビレ

³ これは決勝ラウンドについての言及。この標題のみ見て両者を混同しないように。

イ」となる⁴

10.3.2 クラシックビレイによる場合は、いかなる記録も認定されない。すなわち 8.2.3, 8.3.3, 8.3.5 及び 8.3.8 は適用されない。

第 3 部 各大会についての規定

11. ワールドカップ・シリーズ

決勝は(カテゴリーごとに)わけておこなう

11.3.2

iii. リードとボルダリングについては、決勝は別個に実施されねばならない。⁵

総合ワールドカップランキング⁶

11.7.8 ~~「複合ランキング」は各ワールドカップ・シリーズの各 3 種目で、選手に与えられた最高順位ポイントを加算して計算し、順位ポイントの合計の降順で選手の順位を決定する。種目ごとに、ワールドカップ大会数が 5 以下の場合にはすべての結果を加算し、6 以上の場合には、大会数から 1 を減じた数を上限として成績を加算する。~~

当該シーズンにおいて各種目で少なくとも 2 大会に出場（ボルダリング 2 大会、リード 2 大会、スピード 2 大会）した選手のみに総合ワールドカップランキングが与えられる。1 種目について 2 大会より多く参加した選手については、上位 2 大会の成績を採用する。

11.7.9 「総合ワールドカップランキング」は以下のように算出する：

- i. 11.7.8 に該当する選手のみについて、実施済みの各大会ごとに資格のある各選手の昇順(小さい値が上位)に等しい「ランキングポイント」を算出する。
- ii. ランキングポイントの総計は、対象となる各大会ごとに付与されたランクポイントを掛け合わせることによって、各競技者ごとに算出する。
- iii. 該当する各選手は、その選手のランキングポイント総計の昇順(小さい値が上位)で順位付けされる。

ドーピング検査の要件の明確化

11.10.2

- i. 個々の大会の各カテゴリーの優勝者、または IFSC テクニカル・デリゲイトの指示により、個々の大会の各カテゴリーの決勝進出者から選抜。

12. 世界選手権

⁴ この部分はややこしい。2017 までは 10.3 の標題は“TIMING”となっていたが、手動計時の廃止に伴いこれが削除され 10.3 は新たに“AUTOBELAY”となった。項目全体が差し替えられたと言うことである。

⁵ ここは曖昧な記述。原文も“The finals shall be organized separately for Lead and Bouldering.”で、これだけでは何が何だかわからない。だが 1 月に発表された“Annual Rules Review”には“Finals shall be split by gender for all events.”とあり、従来は男女同時進行とされていたボルダの決勝も、男女を別々におこなう(日本では従来からこのやり方)と言っている。この 11.3.2 iii もその意味で追加された文言と考えるべきだろう。これは 12.3.1、でも同様である。

⁶ 従来の日本語版では「複合ランキング」としていたが、別途 Combine が規定されこちらに「複合」の訳語をあてているため、こちらは「総合ランキング」とする。

決勝は(カテゴリーごとに)わけておこなう

12.3.1 世界選手権の各競技の形式は、IFSC がそれに替わる形式を指定しない限り、第 2 部の該当するセクションの各競技規則に定めるところに従わなければならない。リードとボルダリングについては、決勝は別個に実施されねばならない。

登録期限の繰り上げ

12.4.5 各世界選手権の選手団登録の締め切りは、大会初日の ~~5~~10 日前とする。

総合順位⁷

12.7.3 ~~条件に該当する選手について総合順位を以下のように算出する：~~

~~i. 総合順位は、成績が確定した各種目ごとの総合順位ポイントを合計した値の昇順で決定する(すなわち総合ポイントが小さい方が上位になる)。~~

~~例:~~

選手	総合順位 ポイント (リード)	総合順位 ポイント (ボルダー)	総合順位 ポイント (スピード)	合計	総合順位
A	1	3	3	7	3
B	2	1	2	5	1
C	3	2	1	6	2

~~ii. ポイント合計後に 2 名以上の選手が同順位となった場合、同着となった各選手の最も良い成績を比較する。それでも順位が分らない場合は、2 番目に良い成績を比較する。もし全ての成績を比較してもなお順位が分らない場合は、同着の選手の個々の成績をつきあわせて順位を分ける。~~

~~例 1:~~

選手	総合順位 ポイント (リード)	総合順位 ポイント (ボルダー)	総合順位 ポイント (スピード)	合計	総合順位
A	1	3	9	13	1
B	2	9	2	13	2

~~最も良い成績が 1 位と 2 位で分かれるため、A 選手が B 選手より上位となる。~~

~~例 2:~~

選手	総合順位 ポイント (リード)	総合順位 ポイント (ボルダー)	総合順位 ポイント (スピード)	合計	総合順位
A	1	3	9	13	1
B	4	1	8	13	2

~~各選手の最も良い成績は同じだが、2 番目に良い成績が 3 位と 4 位で分かれるため、A 選手が B 選手より上位となる。~~

~~例 3:~~

選手	総合順位	総合順位	総合順位	合計	総合順位
----	------	------	------	----	------

⁷ この Rule modification の原文では、12.7.2、12.7.4 も変更があるように書かれているが、実際は変更はなく、変更は 12.7.3 のみである。

	ポイント (リード)	ポイント (ボルダー)	ポイント (スピード)		
A	1	3	9	13	1
B	3	9	1	13	2

~~各選手の最も良い成績、二番目に良い成績は同じだが、3種目の内2種目でB選手より上位の成績を獲得しているA選手がB選手より上位となる。~~

各選手が各競技で獲得したランキングポイントを掛け合わせて、各選手のランキングポイント総計を算出する。各選手は、選手ごとに算出されたランキングポイント総計の昇順で順位付けされる(少ない値が上位)が、複数の選手が同じランキングポイント総計を有する場合、同着の選手の順位は、各競技での当該選手同士の対戦成績を比較することによって決定する。:

例: 同着の選手は、より上位の成績をとった種目数の比較で順位を分ける

選手	スピード	ボルダー	リード	ポイント	総合順位
選手A	12	3	8	288	1
選手B	4	8	9	288	2

12.8.1

- iii. 複合種目が実施されない場合、その金、銀、銅メダルは、各カテゴリーの総合ランキングがそれぞれ1位、2位、3位の選手に授与される

ドーピング検査の要件の明確化

12.10.2

- i. 個々の競技の各カテゴリーの優勝者、またはIFSCテクニカル・デリゲイトの指示により、個々の大会の各カテゴリーの決勝進出者から選抜。

13. 世界ユース選手権

登録期限の繰り上げ

13.4.5 各世界ユース選手権の選手団登録の締め切りは、大会初日の ~~5~~10 日前とする。

15. 複合競技およびオリンピック競技会

複数の選考大会からのシーディングリスト作成方法の明確化

15.2.2.1

- ii. 選手が複数の選考大会を経て複合大会への出場資格を得た場合、その大会⁸で有効な選考システムに従う。成績の優先順位はIOCが公表し、世界選手権での成績は大陸選手権での成績よりも優先される。い、次にIFSCが発表した対応するシーディングリスト基準に従う。

⁸ ここは“the event”(大会)がどの大会を指すかがわかりにくい。一番筋が通るのは、複合大会の各種目ごとに、その種目の選考大会の結果に従うという解釈に思われる。なお“Seeding”は15.5.2.3を見ると、選考大会の結果を複合大会の成績に(カウントバック的に)反映させるための数字のように見える。

手動計時の廃止に伴う削除

15.4.1.1 a)が全文削除され、以下が繰り上げ

スピード競技の再競技は、現在では、同着でない選手が有効な時間記録を持たない場合のみ実施

15.4.1.1 a) 予選ラウンドについては …略…

ii. ~~セカンド・タイムを保持しない選手は、セカンド・タイムを保持する選手よりも下位となり、これらの選手の序列は(1人以上いる場合)順位を分けるために左レーン(レーンA)で追加競技を実施する。~~

b) 決勝ラウンドについては：

iii. ~~いずれかのレースで両選手が同じタイムを保持した場合、そのレースは関係する選手のための2分間の休憩時間ののちに再競技を行う。この再競技後になお同着だった場合は、2人の選手の間で序列は、予選ラウンドにおいて各選手が記録した最も速いタイムを比較する。なお同着が残る場合は、予選の二番目に良い時間記録を比較する。~~

iv ~~iiiの比較で同着が分けられない場合、複合大会の予選ラウンドの順位を比較する。最も良い順位をもつ選手が一位となる。~~

c) 2人もしくはそれ以上の選手が同着かつ有効なタイムを保持していない場合 …略…

i. ~~予選ラウンドでは、順位を分けるために左レーン(レーンA)で追加競技を実施する。同着とみなし、その順位は15.5.2に述べる方法で算出する。~~

ii. ~~決勝ラウンドのレース1、2および3では、予選ラウンドにおいて各選手が記録した最も速いタイムを比較する。追加競技をおこない、上記15.4.1.1 c) iiiの条項を適用してなお同着が残る場合⁹~~

ボルダリング競技では新しい採点システムにあわせるためいくつかの項目を削除¹⁰

15.4.1.2 ボルダー競技については、次の修正点および追加点を加えたセクション7(ボルダー)の規定に従う：

a) 2人もしくはそれ以上の選手が同着の場合、同着選手の順位はゾーンのアテンプト数の比較で決定する；

b) 決勝ラウンドにおいては、(i)¹¹の比較で同着が残る場合、予選ラウンドのボルダリングの成績を比較して決定する。

c) a)、b)の適用後なお1位に同着が残る場合、これらの選手は同着とみなし、その順位は15.5.2に述べる方法で算出する。

リード競技での1/10単位の時間記録使用の削除と、リードの順位では同着とすることを認める

15.4.1.3

a) 2人もしくはそれ以上の選手が同着の場合、…略…

⁹ 尻切れトンボだが、原文が“In Races 1, 2 or 3 of the Final round, by conducting an additional run, and if they remain tied by applying the provision described above in section 15.4.1.1 c) iii”となっている。

¹⁰ 原文には具体的な変更の記述がないが、手抜きとしか見えない。変更内容は単純ではないので、この部分は変更後の条文を訳出する。

¹¹ a)の誤りと推測される。

- i. 秒単位のクライミング・タイムを比較する（短い方が上位）；
 - ii. ~~(i)の適用後、2人もしくはそれ以上の選手が同着の場合、公式ビデオ記録で記録された1/10秒単位のクライミング・タイムを用いて順位を分ける；かつ~~
- b) 決勝ラウンドについては、(ii)の適用後も順位が分かれぬ選手がいる場合、…略…
- c) a)、b)の適用後なお1位に同着が残る場合、これらの選手は同着とみなし、その順位は15.5.2に述べる方法で算出する。

決勝の複合順位については、同着でない選手を加えた予選ラウンドの複合順位を比較する

15.5.2.3

b) 決勝ラウンドでは、予選ラウンドの複合順位を比較する。